

2. 【設置の趣旨・目的等】

ディプロマ・ポリシーにおいて、「高い倫理観」を有するとあるが、本研究科における「倫理観」の定義や、各科目で具体的にどのように高い倫理観を修得させるのかがシラバスにおいても不明確であるため、「倫理観」に係るディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー及び対応する各科目との関係性も踏まえて明確に説明すること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーにおける「高い倫理観」についての説明が不明確であったため、その定義や具体的な修得方法等について説明する。「高い倫理観」とは「研究に関する倫理観」のことを指しており、それが具体的に意味するところは、研究者が研究活動を行うにあたって持つておかなければならない倫理観であり、他者の研究のアイデアや成果に対して正当な評価を行えるのみならず、健全な尊敬の念を抱き、自身を決められたルールに基づいて律することができる行動様式である。剽窃・盗用、研究データの捏造などの不正を行わないことはもちろんのこと、研究資金等の取り扱いまでも含めた研究活動の正当性を担保する倫理観である。

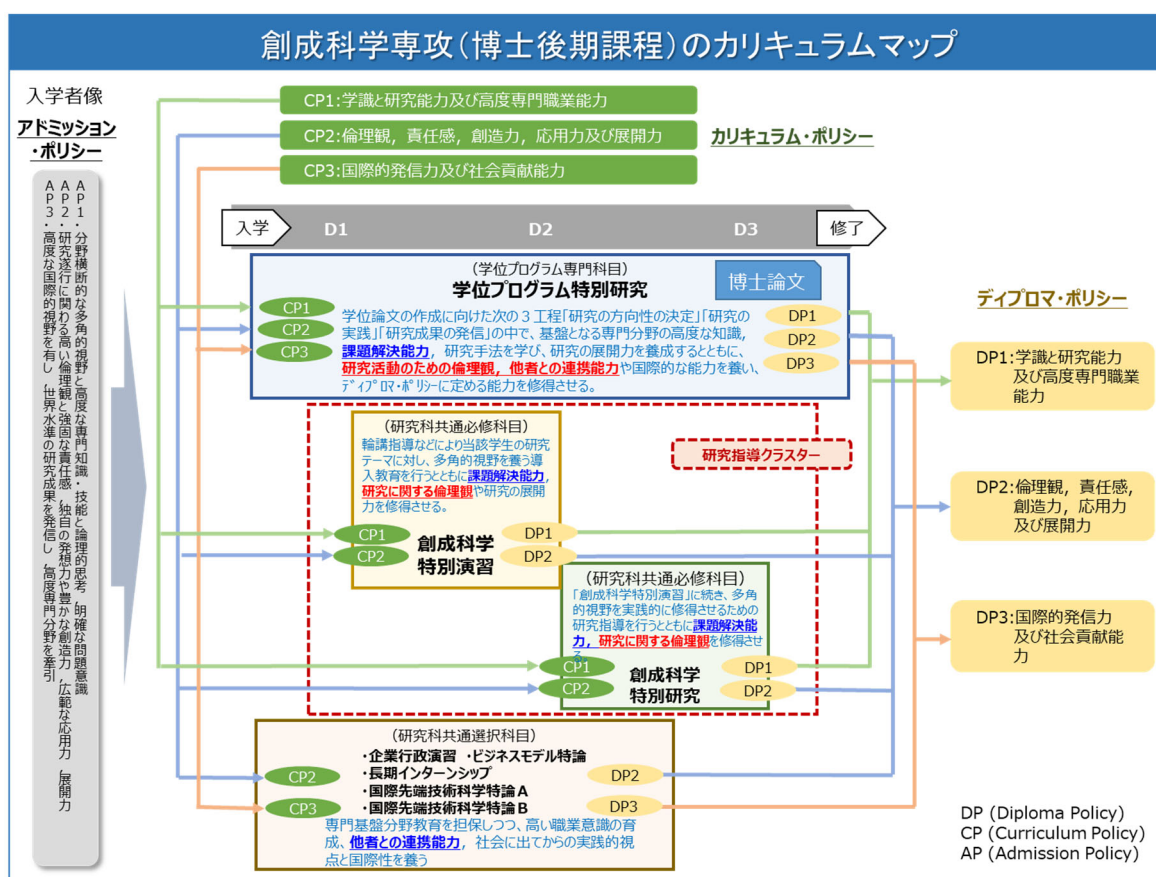


図1: 「創成科学専攻(博士後期課程)のカリキュラムマップ」

学生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うため、研究倫理は学生が主体的に考えるべき問題であるということ認識することは非常に重要なことであり、研究倫理に関する問題は、たとえ一件でも発生すれば学術研究に対する社会からの信頼を大きく損なうことから学生に対する教育や

啓発を行う。

教育課程上における教育の実施形態としては、まず、入学直後に学生が研究指導を受ける「学位プログラム特別研究」において、一般財団法人公正研究推進協会が提供している研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とし、さらに、当該科目の研究指導の中で研究ノートの記載、データの整理、学会発表及び論文の執筆を通じて、主・副研究指導教員から、研究を取り組む上での心得・行動規範、研究データの取り扱い・保管、研究不正に関する事例などについての研究倫理の教育を受ける。

具体的には、博士論文を作成するための準備として、科学技術と倫理、研究者の倫理などについて学び、指導教員との上述に関するディスカッション、集中討議などを行う。さらに博士論文作成のため、学生自身の研究テーマが社会に与える影響を考察し、これらを通して、科学技術と社会との関係について広い視野から理解し、学生が研究者や技術者として何をなすべきかを主体的に考えるための資質と能力を育成するとともに実際に起こりうる課題に対応できるような判断力を養う。

「学位プログラム特別研究」の導入科目と位置付ける研究科共通必修科目の「創成科学特別演習」及び「創成科学特別研究」においても、研究倫理の基本についてのガイダンスや各種文献や資料の検索と利用方法、加えて剽窃ソフトを活用した指導など引用方法を中心とした研究に関する倫理教育を行う。

以上の各科目の関係性を、図1「創成科学専攻（博士後期課程）のカリキュラムマップ」に示す。

これらの内容については、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを修正するとともに、シラバスへの内容についても記載が不十分であったため加筆した。

#### 資料：「養成する人材像及び3つのポリシー」（青字下線部）参照

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (22, 28, 29, 30, 33, 34, 44 ページ)

新	旧
(22 ページ) ③ディプロマ・ポリシー ア. 創成科学専攻のディプロマ・ポリシー (中略) ・創成科学専攻のディプロマ・ポリシー 創成科学専攻博士後期課程では、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。 1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 分野横断的な多角的視点と高度な専門知識・技能を身につけ、専門基盤分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、科学・技術・産業・社会の諸領域において、 <u>課題を解決する能力</u> 、専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。 2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力	(18 ページ) ③ディプロマ・ポリシー ア. 創成科学専攻のディプロマ・ポリシー (中略) ・創成科学専攻のディプロマ・ポリシー 創成科学専攻博士後期課程では、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。 1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 分野横断的な多角的視点と高度な専門知識・技能を身につけ、専門基盤分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、科学・技術・産業・社会の諸領域において、 <u>専門的な職業を牽引</u> できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。 2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

<p>研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、専門基盤分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、<u>専門基盤分野の異なる他者と連携・協力できる能力</u>、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p> <p>(以下略)</p> <p>(28 ページ)</p> <p>① 研究科共通必修科目</p> <p>(中略)</p> <p>ア. 創成科学特別演習</p> <p>研究を行う上でまず初めに行う事は、その研究を行う必要性が生じた歴史的背景や現在までの技術動向を整理し、将来展望を明確にした上で適切な課題を設定することである。その際、様々な分野の視点から検討を行うことは優れた研究の足がかりとなる。</p> <p>本演習では、学生自身の研究テーマに対して別の専門基盤分野となる研究指導クラスター教員の下で、当該教員から提示された文献をもとに発表・討論を行い、それをまとめた概説を作成する。さらに発表会等においてその内容を発表し多角的な視野を養う。</p> <p>具体的には、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員 (<u>学生と異なる学位プログラム教員</u>) 複数人が担当教員となり、教員自身の研究分野の紹介や参考となる研究論文、参考著書、技術資料等を提示し、輪講指導、文献読解指導等を行いながら、研究室内や他のグループとの発表・討論を実施し、それらを概説として取</p>	<p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、専門基盤分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p> <p>(以下略)</p> <p>(23 ページ)</p> <p>① 研究科共通必修科目</p> <p>(中略)</p> <p>ア. 創成科学特別演習</p> <p>研究を行う上でまず初めに行う事は、その研究を行う必要性が生じた歴史的背景や現在までの技術動向を整理し、将来展望を明確にした上で適切な課題を設定することである。その際、様々な分野の視点から検討を行うことは優れた研究の足がかりとなる。</p> <p>本演習では、学生自身の研究テーマに対して別の専門基盤分野となる研究指導クラスター教員の下で、当該教員から提示された文献をもとに発表・討論を行い、それをまとめた概説を作成する。さらに発表会等においてその内容を発表し多角的な視野を養う。</p> <p>具体的には、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員 (<u>学位プログラム外教員</u>) 複数人が担当教員となり、教員自身の研究分野の紹介や参考となる研究論文、参考著書、技術資料等を提示し、輪講指導、文献読解指導等を行いながら、研究室内や他のグループとの発表・討論を実施し、それらを概説として取り纏める。</p>
---	--

り纏める。その際、文献の正しい引用法の指導も行う、論文執筆時に守るべき研究倫理に関する教育を行う。その後、専攻全体で開催される創成科学特別演習発表会において社会実装に向けた構想も踏まえてその内容を発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養う。なお、場合によっては本演習に引き続き行う「創成科学特別研究」において研究を行う際に必要となる実験やシミュレーションのスキルを修得する上で必要となる基礎知識も修得させる。加えて、研究倫理の基本についてのガイダンスや各種文献や資料の検索と利用方法、加えて剽窃ソフトを活用した指導など引用方法を中心とした研究に関する倫理教育を行う。

(以下略)

(29 ページ)

#### イ. 創成科学特別研究

研究の歴史的背景や現在までの技術動向及び将来展望について、自らの研究テーマを別の専門基盤分野の側面から見つめ直し、自らの研究の立ち位置や将来展望を多面的に見つめる基本的な能力の修得については、本科目の導入教育として先に開講される「創成科学特別演習」がそれを担う。

本科目では「創成科学特別演習」を踏まえ、自らの研究の展開、展望、社会的意義を多角的な視点から把握できる能力や社会実装に向けた基盤的な視点を養うことを目的とする。加えて、研究倫理の基本についてのガイダンスや各種文献や資料の検索と利用方法、加えて剽窃ソフトを活用した指導など引用方法を中心とした研究に関する倫理教育を行う。

具体的には、当該学生の学位論文の導入部 (introduction) と将来展望 (future work) に相当する部分を、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員 (副研究指導教員：学生と異なる学位プログラム教員) が中心となり主副研究指導教員 (学生が

その後、専攻全体で開催される創成科学特別演習発表会において社会実装に向けた構想も踏まえてその内容を発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養う。なお、場合によっては本演習に引き続き行う「創成科学特別研究」において研究を行う際に必要となる実験やシミュレーションのスキルを修得する上で必要となる基礎知識も修得させる。

(以下略)

(24 ページ)

#### イ. 創成科学特別研究

研究の歴史的背景や現在までの技術動向及び将来展望について、自らの研究テーマを別の専門基盤分野の側面から見つめ直し、自らの研究の立ち位置や将来展望を多面的に見つめる基本的な能力の修得については、本科目の導入教育として先に開講される「創成科学特別演習」がそれを担う。

本科目では「創成科学特別演習」を踏まえ、自らの研究の展開、展望、社会的意義を多角的な視点から把握できる能力や社会実装に向けた基盤的な視点を養うことを目的とする。

具体的には、当該学生の学位論文の導入部 (introduction) と将来展望 (future work) に相当する部分を、学生の研究テーマに対して異なる専門基盤分野となる研究指導クラスター教員 (副研究指導教員：学位プログラム外教員) が中心となり主副研究指導教員 (学位プログラム内教員) と連携し、その指導の下で完成させる。

その後、専攻全体で開催される創成科学特別研究発表会において発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養うとともに評価を受け、その評

所属する学位プログラム教員)と連携し、その指導の下で完成させる。その際、文献の正しい引用法の指導も行い、論文執筆時の研究倫理教育を行う。その後、専攻全体で開催される創成科学特別研究発表会において発表し、質疑応答を通して多角的な視野を養うとともに評価を受け、その評価は学位論文予備審査のための参考資料となる。

本科目は、7つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」の研究指導内容を効果的に補強する「多角的視野を養うための展開教育の実践の場」という位置づけである。

(以下略)

(30 ページ)

### ③ 学位プログラム専門科目

学位プログラム専門科目として、7つの学位プログラムごとに「学位プログラム特別研究(必修6単位)」を配置する。本科目では、基盤となる専門分野(学問体系)の高度な知識と研究能力を修得させる。博士後期課程においては、学位論文を完成させることが当面の直接的な目標である。そのための前提として、国際的発信力を養うことを目的に研究成果の国内外での発表を複数回、さらにそれに応じて原著論文を学会誌、あるいは相応の評価がされている専門誌に向けて、執筆・投稿し、受理されて掲載されることが必須条件である。その中心を担う科目が7つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」となる。なお、上述したように「研究指導クラスター」に配置した2つの科目がこれを効果的に補強する。また、研究に関する倫理観を養成するため、研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とすることに加え、研究指導の中で研究ノートの記載、データの整理、学会発表及び論文の執筆を通じて、主・副研究指導教員から、研究倫理の教育を行う。具体的には、博士論文を作成するための準備として、科

価は学位論文予備審査のための参考資料となる。本科目は、7つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」の研究指導内容を効果的に補強する「多角的視野を養うための展開教育の実践の場」という位置づけである。

(以下略)

(25 ページ)

### ③ 学位プログラム専門科目

学位プログラム専門科目として、7つの学位プログラムごとに「学位プログラム特別研究(必修6単位)」を配置する。本科目では、基盤となる専門分野(学問体系)の高度な知識と研究能力を修得させる。博士後期課程においては、学位論文を完成させることが当面の直接的な目標である。そのための前提として、国際的発信力を養うことを目的に研究成果の国内外での発表を複数回、さらにそれに応じて原著論文を学会誌、あるいは相応の評価がされている専門誌に向けて、執筆・投稿し、受理されて掲載されることが必須条件である。その中心を担う科目が7つの学位プログラムに配置する各「学位プログラム特別研究」となる。なお、上述したように「研究指導クラスター」に配置した2つの科目がこれを効果的に補強する。

この「学位プログラム特別研究」は、ディプロマ・ポリシーの項目「1.学識と研究能力及び高度専門職業能力」、「2.倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力」、「3.国際的発信力及び社会貢献能力」のすべてを担保する。

(以下略)

学技術と倫理，研究者の倫理などについて学び，指導教員との上述に関するディスカッション，集中討議などを行う。さらに博士論文作成のため，学生自身の研究テーマが社会に与える影響を考察し，これらを通して，科学技術と社会との関係について広い視野から理解し，学生が研究者や技術者として何をなすべきかを主体的に考えるための資質と能力を育成するとともに実際に起こりうる課題に対応できるような判断力を養う。

この「学位プログラム特別研究」は，ディプロマ・ポリシーの項目「1.学識と研究能力及び高度専門職業能力」，「2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力」，「3.国際的発信力及び社会貢献能力」のすべてを担保する。

(以下略)

(33 ページ)

③ 学位プログラム専門科目

(中略)

表2：ディプロマ・ポリシーと対応科目

ディプロマ・ポリシー	対応科目	修了要件等での担保
1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 分野横断的な多角的視点と高度な専門知識・技能を身につけ，専門基盤分野において明確な問題意識を持ちつつ，自立して研究を遂行し，科学・技術・産業・社会の諸領域において，課題を創発する能力，専門的な職業を牽引できる高度な能力，それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 創成科学特別演習 創成科学特別研究	必修6単位 必修2単位 必修2単位
2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力 研究遂行に際して高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，専門基盤分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視点に基づき独創的な発想力や豊かな創造力により，実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 創成科学特別演習 創成科学特別研究 ビジネスモデル特論 企業行政演習 長期インターンシップ	必修6単位 必修2単位 必修2単位 選択必修1単位※ 選択必修1単位※ 選択必修2単位※
3. 国際的発信力及び社会貢献能力 問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できるコミュニケーション能力，豊かな健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立つて産業活性化に貢献できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 国際先端技術科学特論A 国際先端技術科学特論B	必修6単位 選択必修1単位※ 選択必修1単位※

※選択必修科目の中から1単位以上

(以下略)

(34 ページ)

(2) カリキュラム・ポリシー

(中略)

創成科学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成と教育方法
- (1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

学技術と倫理，研究者の倫理などについて学び，指導教員との上述に関するディスカッション，集中討議などを行う。さらに博士論文作成のため，学生自身の研究テーマが社会に与える影響を考察し，これらを通して，科学技術と社会との関係について広い視野から理解し，学生が研究者や技術者として何をなすべきかを主体的に考えるための資質と能力を育成するとともに実際に起こりうる課題に対応できるような判断力を養う。

この「学位プログラム特別研究」は，ディプロマ・ポリシーの項目「1.学識と研究能力及び高度専門職業能力」，「2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力」，「3.国際的発信力及び社会貢献能力」のすべてを担保する。

(以下略)

(28 ページ)

③ 学位プログラム専門科目

(中略)

表2：ディプロマ・ポリシーと対応科目

ディプロマ・ポリシー	対応科目	修了要件等での担保
1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 分野横断的な多角的視点と高度な専門知識・技能を身につけ，専門基盤分野において明確な問題意識を持ちつつ，自立して研究を遂行し，科学・技術・産業・社会の諸領域において，課題を創発する能力，専門的な職業を牽引できる高度な能力，それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 創成科学特別演習 創成科学特別研究	必修6単位 必修2単位 必修2単位
2. 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力 高い倫理観と強固な責任感を有するとともに，専門基盤分野及びその関連分野を総合的に理解し，多角的な視点に基づき独創的な発想力や豊かな創造力により，実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 創成科学特別演習 創成科学特別研究 ビジネスモデル特論 企業行政演習 長期インターンシップ	必修6単位 必修2単位 必修2単位 選択必修1単位※ 選択必修1単位※ 選択必修2単位※
3. 国際的発信力及び社会貢献能力 問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できるコミュニケーション能力，豊かな健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立つて産業活性化に貢献できる能力を有する。	学位プログラム特別研究 国際先端技術科学特論A 国際先端技術科学特論B	必修6単位 選択必修1単位※ 選択必修1単位※

※選択必修科目の中から1単位以上

(以下略)

(29 ページ)

(2) カリキュラム・ポリシー

(中略)

創成科学専攻のカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成と教育方法
- (1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

<p>基盤となる専門分野に関する高度の専門的知識と能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した他の基盤分野の視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視野から科学・技術・産業・社会の諸領域において、<u>課題を解決する能力及び新たな価値を創成できる能力</u>が修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、<u>研究遂行に関わる</u>高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び展開力をもって，自立して行動できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し，専門基盤分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに，<u>専門基盤分野の異なる他者と連携・協力できる能力</u>，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>客観性，厳格性及び公平性を確保するため，学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。</p>	<p>基盤となる専門分野に関する高度の専門的知識と能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した他の基盤分野の視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視野から科学・技術・産業・社会の諸領域において<u>新たな価値を創成できる能力</u>が修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観，責任感，創造力，応用力及び展開力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し，高い倫理観と強固な責任感，独自の発想力や豊かな創造力，広範な応用力及び展開力をもって，自立して行動できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し，専門基盤分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し，国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに，豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力，及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>体系的な教育課程と研究指導を通じて，自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>客観性，厳格性及び公平性を確保するため，学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，博士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。</p>
--	--

<p style="text-align: center;">(以下略)</p> <p>(44 ページ)</p> <p>7. 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 創成科学専攻のアドミッション・ポリシー</p> <p>創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてアドミッション・ポリシーを策定している。創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、中長期的な産業界・社会のニーズを踏まえ、高度な専門知識と多角的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。</p> <p>1. 高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人</p> <p>2. <u>研究遂行に関わる</u>高い倫理観と強固な責任感を有し、専門分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人</p> <p>3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人</p> <p style="text-align: center;">(以下略)</p>	<p style="text-align: center;">(以下略)</p> <p>(38 ページ)</p> <p>7. 入学者選抜の概要</p> <p>(1) 創成科学専攻のアドミッション・ポリシー</p> <p>創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてアドミッション・ポリシーを策定している。創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、中長期的な産業界・社会のニーズを踏まえ、高度な専門知識と多角的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。</p> <p>1. 高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人</p> <p>2. 高い倫理観と強固な責任感を有し、専門分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人</p> <p>3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人</p> <p style="text-align: center;">(以下略)</p>
---	--

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (シラバス-2, 4, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28 ページ)】

新	旧
---	---



<p>(シラバス-2 ページ)</p> <p>■授業科目名 創成科学特別演習 (中略)</p> <p>■授業の目的 本演習では自らの専門基盤分野とは異なる基盤分野の視点から自らの研究テーマを多角的に見る能力を養うことを目的とし、研究対象が似通った別の基盤分野の教員が文献等を用いた指導を行う。<u>その際、文献の正しい引用法の指導も行い、論文執筆時に守るべき研究倫理に関する教育を行う。</u>本演習は「学位プログラム特別研究」の相補的な科目であり、「多角的視野を養うための創成科学特別研究の導入教育」の位置づけとなる。 (中略)</p> <p>■到達目標 1. 他の専門基盤分野の視点と自分分野の視点の違いを説明できる。 2. 他の専門基盤分野の視点から自らの研究背景を説明できる。 3. 他の専門基盤分野の教員と十分な討論ができ、その要点をまとめることができる。 4. <u>文献を正しく引用できる。</u> (以下略)</p>	<p>(シラバス-2 ページ)</p> <p>■授業科目名 創成科学特別演習 (中略)</p> <p>■授業の目的 本演習では自らの専門基盤分野とは異なる基盤分野の視点から自らの研究テーマを多角的に見る能力を養うことを目的とし、研究対象が似通った別の基盤分野の教員が文献等を用いた指導を行う。本演習は「学位プログラム特別研究」の相補的な科目であり、「多角的視野を養うための創成科学特別研究の導入教育」の位置づけとなる。 (中略)</p> <p>■到達目標 1. 他の専門基盤分野の視点と自分分野の視点の違いを説明できる。 2. 他の専門基盤分野の視点から自らの研究背景を説明できる。 3. 他の専門基盤分野の教員と十分な討論ができ、その要点をまとめることができる。 (以下略)</p>
<p>(シラバス-4 ページ)</p> <p>■授業科目名 創成科学特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 本科目では自身の研究の深化に繋げられるようにさせるために、自らの研究テーマを多角的な視点から把握できる能力に加え、社会実装に向けた基盤的な視点を養うことを目的とする。具体的には、主たる専門基盤分野の教員と研究対象が似通った別の専門基盤分野の教員が共同して文献等を用いた指導を行い、研究テーマを基盤分野の側面から掘り下げるとともに、別の専門基盤分野の側面から見つめ</p>	<p>(シラバス-4 ページ)</p> <p>■授業科目名 創成科学特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 本科目では自身の研究の深化に繋げられるようにさせるために、自らの研究テーマを多角的な視点から把握できる能力に加え、社会実装に向けた基盤的な視点を養うことを目的とする。具体的には、主たる専門基盤分野の教員と研究対象が似通った別の専門基盤分野の教員が共同して文献等を用いた指導を行い、研究テーマを基盤分野の側面から掘り下げるとともに、別の専門基盤分野の側面から見つめ</p>

直し、自らの研究の立ち位置や将来展望を多面的に見つめる能力を養う。すなわち、研究の背景、展開、展望、社会的意義を多角的な視点から把握できる能力や社会実装に向けた基盤的な視点を養い、自らの研究の社会的な立ち位置やこれからの展開像を明確にさせ、研究指導クラスター内において主・副研究指導教員の下で学位論文の序論や将来展望に相当する部分を作成する。加えて、文献の正しい引用法の指導も行い、論文執筆時に守るべき研究倫理に関する教育を行う。

(中略)

■到達目標

1. 他の専門基盤分野の視点と自分野の視点の違いを説明できる。
2. 他の専門基盤分野の視点から自らの研究の展開、展望、社会的意義を説明できる。
3. 他の専門基盤分野の教員と十分な討論ができ、その要点をまとめることができる。
4. 文献を正しく引用できる。

(以下略)

(シラバス-16 ページ)

■授業科目名

社会基盤システム特別研究

(中略)

■担当教員名 (漢字及びローマ字表記)

創成科学専攻社会基盤システムプログラム全専任教員

(中略)

■対象学生・学年

創成科学専攻社会基盤システムプログラム1～3年次

■授業の目的

「社会基盤施設の設計・管理」、「自然災害の軽減」、「地球・地域の環境の評価と保全」、「持続可能な地域社会の創成」に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「社会基盤システム特別研究」を開講し、先

直し、自らの研究の立ち位置や将来展望を多面的に見つめる能力を養う。すなわち、研究の背景、展開、展望、社会的意義を多角的な視点から把握できる能力や社会実装に向けた基盤的な視点を養い、自らの研究の社会的な立ち位置やこれからの展開像を明確にさせ、研究指導クラスター内において主・副研究指導教員の下で学位論文の序論や将来展望に相当する部分を作成する。

(中略)

■到達目標

1. 他の専門基盤分野の視点と自分野の視点の違いを説明できる。
2. 他の専門基盤分野の視点から自らの研究の展開、展望、社会的意義を説明できる。
3. 他の専門基盤分野の教員と十分な討論ができ、その要点をまとめることができる。

(以下略)

(シラバス-17 ページ)

■授業科目名

社会システム系特別研究

(中略)

■担当教員名 (漢字及びローマ字表記)

創成科学専攻社会システム系プログラム全専任教員

(中略)

■対象学生・学年

創成科学専攻社会システム系プログラム1～3年次

■授業の目的

「社会基盤施設の設計・管理」、「自然災害の軽減」、「地球・地域の環境の評価と保全」、「持続可能な地域社会の創成」に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「社会システム系特別研究」を開講し、先端

端的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。また, 研究に関する倫理観を養成するため, 研究倫理教育 e ラーニングプログラム (e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え, 研究指導の中で研究ノートの記載, データの整理, 学会発表及び論文の執筆を通じて, 主・副研究指導教員から, 研究倫理に関する教育を行う。

(中略)

■到達目標

- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学に関して, 国際社会に通用する高い見識と研究遂行に関わる正しい倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し, 課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に, 指導教員との討論やグループ討論を行いながら, その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し, 発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は, 以下のとおりである。

- ・研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)

的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。

(中略)

■到達目標

- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。
- ・社会基盤学, 社会科学, あるいは人間科学に関して, 国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し, 課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に, 指導教員との討論やグループ討論を行いながら, その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し, 発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は, 以下のとおりである。

<p><u>を受講する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</li> </ul> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-18 ページ)</p> <p>■授業科目名 化学生命工学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>「人類を幸福にする化学」、「環境と調和する化学」、「新しい資源やエネルギーを開発する化学及び生物工学」、「生物の仕組みを知り、生物の力を活かす生物工学」、「病気の診断・予防・治療に役立つ生物工学及び生命科学」に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「化学生命工学系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。<u>また、研究に関する倫理観を養成するため、研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え、研究指導の中で研究ノートの記載、データの整理、学会発表及び論文の執筆を通じて、主・副研究指導教員から、研究倫理に関する教育を行う。</u></p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学に関する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</li> </ul> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-19 ページ)</p> <p>■授業科目名 化学生命工学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>「人類を幸福にする化学」、「環境と調和する化学」、「新しい資源やエネルギーを開発する化学及び生物工学」、「生物の仕組みを知り、生物の力を活かす生物工学」、「病気の診断・予防・治療に役立つ生物工学及び生命科学」に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「化学生命工学系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・化学工学、生物工学、あるいは生命化学に関する</li> </ul>
---	--

<p>諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</p> <p>・化学工学, 生物工学, あるいは生命化学に関して、国際社会に通用する高い見識と<u>研究遂行に関わる正しい倫理観</u>をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・<u>研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)</u>を受講する。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-20 ページ)</p> <p>■授業科目名</p> <p>機械科学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>機械工学の基盤技術・基幹技術・先端技術に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「機械科学系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。<u>また、研究に関する倫理観を養成するため、研究倫理教育 e ラーニ</u></p>	<p>諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</p> <p>・化学工学, 生物工学, あるいは生命化学に関して、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-21 ページ)</p> <p>■授業科目名</p> <p>機械科学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>機械工学の基盤技術・基幹技術・先端技術に関わる専門知識、及び異分野融合領域に関わる専門知識、並びに実践的研究能力を高度化するために、学位プログラム専門科目(必修)として「機械科学系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>(中略)</p>
---	--

ングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え、研究指導の中で研究ノートの記載、データの整理、学会発表及び論文の執筆を通じて、主・副研究指導教員から、研究倫理に関する教育を行う。

(中略)

■到達目標

- ・機械工学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。
- ・機械工学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。
- ・機械工学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。
- ・機械工学に関して、国際社会に通用する高い見識と研究遂行に関わる正しい倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。

・研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)を受講する。

- ・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。

(以下略)

(シラバス-22 ページ)

■到達目標

- ・機械工学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。
- ・機械工学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。
- ・機械工学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。
- ・機械工学に関して、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。

- ・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。

(以下略)

(シラバス-23 ページ)

<p>■授業科目名 電気電子物理科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 電気電子工学及びそれに関連する物理学の基盤技術・基幹技術・先端技術に関わる専門知識，及び異分野融合領域に関わる専門知識，並びに実践的研究能力を高度化するために，学位プログラム専門科目（必修）として「電気電子物理科学系特別研究」を開講し，先端的な内容をテーマとする実践的研究，及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて，融合的・独創的な発想能力，探求力や問題解決能力を涵養する。また，<u>研究に関する倫理観を養成するため，研究倫理教育eラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え，研究指導の中で研究ノートの記載，データの整理，学会発表及び論文の執筆を通じて，主・副研究指導教員から，研究倫理に関する教育を行う。</u></p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気電子工学，あるいは物理学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし，専門分野に関する高度な知識・技能，深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し，自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき，広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学に関して，国際社会に通用する高い見識と<u>研究遂行に関わる正しい倫理観</u>をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</li> </ul> <p>■授業の計画 博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し，課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の</p>	<p>■授業科目名 電気電子物理科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 電気電子工学及びそれに関連する物理学の基盤技術・基幹技術・先端技術に関わる専門知識，及び異分野融合領域に関わる専門知識，並びに実践的研究能力を高度化するために，学位プログラム専門科目（必修）として「電気電子物理科学系特別研究」を開講し，先端的な内容をテーマとする実践的研究，及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて，融合的・独創的な発想能力，探求力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気電子工学，あるいは物理学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし，専門分野に関する高度な知識・技能，深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し，自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき，広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</li> <li>・電気電子工学，あるいは物理学に関して，国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</li> </ul> <p>■授業の計画 博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し，課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の</p>
--	--

<p>解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・<u>研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)</u>を受講する。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-24 ページ)</p> <p>■授業科目名 知能情報・数理科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 情報工学, 知能工学及びそれらに関連する数理科学に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目 (必修) として「知能情報・数理科学系特別研究」を開講し, 先端的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。<u>また, 研究に関する倫理観を養成するため, 研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え, 研究指導の中で研究ノートの記載, データの整理, 学会発表及び論文の執筆を通じて, 主・副研究指導教員から, 研究倫理に関する教育を行う。</u></p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標 ・情報工学, 知能工学, あるいは数理科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。</p>	<p>解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-25 ページ)</p> <p>■授業科目名 知能情報・数理科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 情報工学, 知能工学及びそれらに関連する数理科学に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目 (必修) として「知能情報・数理科学系特別研究」を開講し, 先端的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標 ・情報工学, 知能工学, あるいは数理科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。</p>
--	---



<p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</p> <p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</p> <p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学に関して, 国際社会に通用する<u>研究遂行に関わる正しい</u>高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し, 課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に, 指導教員との討論やグループ討論を行いながら, その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し, 発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は, 以下のとおりである。</p> <p>・<u>研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)</u>を受講する。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し, 博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-26 ページ)</p> <p>■授業科目名</p> <p>生物資源学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>「機能的食品の開発」と「生物資源の活用」に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目(必修)として「生物資源学</p>	<p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</p> <p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</p> <p>・情報工学, 知能工学あるいは数理学に関して, 国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し, 課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に, 指導教員との討論やグループ討論を行いながら, その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し, 発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は, 以下のとおりである。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し, 博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-27 ページ)</p> <p>■授業科目名</p> <p>生物資源学系特別研究</p> <p>(中略)</p> <p>■授業の目的</p> <p>「機能的食品の開発」と「生物資源の活用」に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目(必修)として「生物資源学</p>
---	---

系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。また、研究に関する倫理観を養成するため、研究倫理教育eラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え、研究指導の中で研究ノートの記載、データの整理、学会発表及び論文の執筆を通じて、主・副研究指導教員から、研究倫理に関する教育を行う。

(中略)

■到達目標

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学に関して、国際社会に通用する高い見識と研究遂行に関わる正しい倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内

系特別研究」を開講し、先端的な内容をテーマとする実践的研究、及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて、融合的・独創的な発想能力、探求力や問題解決能力を涵養する。

(中略)

■到達目標

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし、専門分野に関する高度な知識・技能、深い理解力及び応用力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき、広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。

・食品科学、生物資源学、あるいは農林畜水産学に関して、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。

■授業の計画

博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内

<p>容例は、以下のとおりである。</p> <p>・<u>研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)</u> <u>を受講する。</u></p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-28 ページ)</p> <p>■授業科目名 光科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 「光機能材料」, 「光情報システム」に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目 (必修) として「光科学系特別研究」を開講し, 先端的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。<u>また, 研究に関する倫理観を養成するため, 研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)の受講を必須とする。これに加え, 研究指導の中で研究ノートの記載, データの整理, 学会発表及び論文の執筆を通じて, 主・副研究指導教員から, 研究倫理に関する教育を行う。</u></p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・光科学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・光科学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</li> <li>・光科学に関して, 国際社会に通用する高い見識と研究遂行に関わる正しい倫理観をもって情報発信</li> </ul>	<p>容例は、以下のとおりである。</p> <p>・指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p> <p>(シラバス-29 ページ)</p> <p>■授業科目名 光科学系特別研究 (中略)</p> <p>■授業の目的 「光機能材料」, 「光情報システム」に関わる専門知識, 及び異分野融合領域に関わる専門知識, 並びに実践的研究能力を高度化するために, 学位プログラム専門科目 (必修) として「光科学系特別研究」を開講し, 先端的な内容をテーマとする実践的研究, 及び学生自身による異分野の先端研究情報の収集・解析を通じて, 融合的・独創的な発想能力, 探求力や問題解決能力を涵養する。</p> <p>(中略)</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光科学と関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とし, 専門分野に関する高度な知識・技能, 深い理解力及び応用力を有する。</li> <li>・光科学と関連分野に関する諸問題を明確に認識し, 自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。</li> <li>・光科学に関する諸現象を多角的・俯瞰的視野で考察でき, 広範な応用力及び展開力をもって本分野のフロンティアを開拓できる能力を有する。</li> <li>・光科学に関して, 国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力と地域と国際</li> </ul>
---	--

<p>できる能力と地域と国際社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・ <u>研究倫理教育 e ラーニングプログラム(e-APRIN)</u>を受講する。</p> <p>・ 指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p>	<p>社会の発展に貢献できる能力を有する。</p> <p>■授業の計画</p> <p>博士論文の作成に向けた研究における背景や意義等を理解し、課題解決のための方法を調査して研究を主体的・能動的に実施する。得られた研究結果の解析を行うと共に、指導教員との討論やグループ討論を行いながら、その結果を正確に分析する。研究成果に基づいて発表用資料を作成し、発表を行うと共に学術誌や評価の定まった専門誌へ原著論文として研究成果を投稿する。研究を通して得られた成果を博士論文としてまとめる。典型的な授業実施内容例は、以下のとおりである。</p> <p>・ 指導教員の研究室で実施されるセミナーに参加し、博士論文に関する研究分野の最新動向について情報収集や発表を行う。</p> <p>(以下略)</p>
--	--

(是正事項) 創成科学研究科 創成科学専攻 (D)

3. 【設置の趣旨・目的等】

社会システム系プログラムについて、構成する教員は約30名であるが、教員名簿上で社会学分野を専門とする教員は数名と見受けられるとともに、本学位プログラムの幅広い構成分野の内容を教育課程上で具体的にどのように担保するかが不明確であり、本学位プログラムが適切に運営されるか疑義がある。このため、主とする専門分野も明確にし、人材養成像や教育目標との関係性も踏まえて説明するとともに、研究科における本学位プログラムの位置付けや意義・効果について、人材需要の動向等における企業ニーズの内容も踏まえて明確に説明すること。

(対応)

以下の内容により「設置の趣旨等を記載した書類」を修正する。

当該プログラム所属の担当教員(29名)の学術分野は、表1のとおり土木、建築、地学、生態系、社会学、公共政策学、文化人類学、心理学等からとなっている。

専門分野	人数	専門分野	人数	専門分野	人数	専門分野	人数
コンクリート工学	3	環境水理学	1	交通工学	1	生態系管理工学	1
地盤工学	2	建築計画学	1	運動生理学	1	生態系工学	1
建築構造学	1	臨床心理学	2	水文学、地域防災	1	地域計画学	1
地震工学	1	地学	3	水理学、河川工学	1	都市計画	1
地域防災学	1	公共政策学	1	防災科学	1	文化人類学	2
地域社会学	1	河川生態学	1				

表1：「社会基盤システムプログラム担当教員の専門分野」

創成科学専攻の前身となる先端技術科学教育部建設創造システムコース及び総合科学教育部地域科学専攻で授与した学位論文の内容からは、社会基盤に起因する課題を、教育・人間行動・社会組織などの面から解決する手法を研究するテーマが多く見られるとともに、近年、防災、環境、地域計画等における社会技術をテーマとするニーズも高くなっていることから、今回の学位プログラムでは、社会学、公共政策学、文化人類学、心理学等の分野の教員によって、こうしたニーズに対応した多角的な視点での教育・研究指導が可能となる。

また、表2のとおり、この分野には公務員、コンサルタントなどの社会人学生が多く、10年間で平均3.6人入学している。

項目	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度	平均
社会人 入学者	5	5	2	5	2	3	7	2	4	1	3.6

表2：前身となる「建設創造システムコースの社会人入学者の推移」

なお、創成科学専攻の前身となる教育部のこれまでの進学実績等に基づき、学位ごとの目安定員を、「学術」3名、「農学」5名、「工学」39名とし、その中で「学術」と「工学」の2つの学位を対象とする社会基盤システムプログラムについては、「学術」3名、「工学」6名に設定している。なお、本プログラムでは、主に社会生活基盤に関する課題解決、持続可能な地域づくり・地域

計画に貢献できる人材を養成する。このことを踏まえ、「学術」系に関しては、とくに都市まちづくり、農山漁村の地域づくりを専門とする社会学系の教員がソフト面からのまちづくりの理論と実践の教育のベースとなり、さらに、公共政策学、文化人類学、運動生理学、臨床心理学等、実証的なアプローチに基づき政策、文化、環境、健康、心理等の観点からまちづくり、地域課題の解決を目指す関連領域の教員が加わり、社会基盤系（理系）教員の専門とする土木、防災、環境、すなわちハード面からのまちづくり研究・実践へのアプローチと相互補完しつつ、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者の養成を目指す形を取る。なお、学位「学術」の目安定員は3名であり、教育の質を担保できる教員数が配置されていると言える。

創成科学専攻（博士後期課程）では、中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、社会基盤分野や社会・人間科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成することとしている。これに対応するように社会基盤システムプログラムでは、上記のような文理横断的な専門知識・技能や教員配置をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成することとしており、創成科学専攻（博士後期課程）の人材養成像と合致している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6, 8, 25 ページ)

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>(2) 研究科・専攻等の特色</p> <p>① 研究科・専攻の特色</p> <p>(中略)</p> <p>「<u>社会基盤システムプログラム</u>」は、南海トラフ大地震などに関する防災関連課題に対応する際の工学的なアプローチのみならず、地域の都市計画や防災心理、地域環境等の社会科学的、人文科学的なアプローチも必要となることから、<u>工学分野の高度な知識・技能に加え、関連する社会科学、人間科学、理学分野を交えた社会技術に関わる高度な知識・技能についても横断的に学修することができ、それらを学位論文に結実させることができる教育体制を整えている。</u></p> <p><u>これらの文理横断的な専門知識・技能をふまえ、</u>地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を</p>	<p>(5 ページ)</p> <p>(2) 研究科・専攻等の特色</p> <p>① 研究科・専攻の特色</p> <p>(中略)</p> <p>「<u>社会システム系プログラム</u>」は、南海トラフ大地震などに関する防災関連課題に対応する際の工学的なアプローチのみならず、地域の都市計画や防災心理、地域環境等の社会科学的、人文科学的なアプローチも必要となることから、これらの文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成する地域に貢献するプログラムとなる。</p>

創造できる高度専門職業人・研究者を養成する地域に貢献するプログラムとなる。

なお、本プログラムでは、主に社会生活基盤に関する課題解決、持続可能な地域づくり・地域計画に貢献できる人材を養成する。このことを踏まえ、「学術」系に関しては、とくに都市まちづくり、農山漁村の地域づくりを専門とする社会学系の教員がソフト面からのまちづくりの理論と実践の教育のベースとなり、さらに、公共政策学、文化人類学、運動生理学、臨床心理学等、実証的なアプローチに基づき政策、文化、環境、健康、心理等の観点からまちづくり、地域課題の解決を目指す関連領域の教員が加わり、社会基盤系（理系）教員の専門とする土木、防災、環境、すなわちハード面からのまちづくり研究・実践へのアプローチと相互補完しつつ、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者の養成を目指す形を取る。

(8ページ)

## ② 学位プログラムの特色

(中略)

### ア. 社会基盤システムプログラム

本プログラムは、防災科学分野、地域環境分野、構造・材料分野、地域創成分野、臨床心理学分野の構成の下に、現代社会の基幹を成す科学技術分野である社会基盤学、社会科学、あるいは人間科学の深化と、文理横断的な視野を含めた広い視野に立って他分野との融合化をさらに発展させることができる研究者や技術者を養成することを通して、次世代の持続可能社会に貢献することを目的として、工学分野の高度な知識・技能に加え、関連する社会科学、人間科学、理学分野を交えた社会技術に関わる高度な知識・技能についても横断的に学修することができ、それらを学位論文に結実させることができる教育体制を整えている。

これらの文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等

(7ページ)

## ② 学位プログラムの特色

(中略)

### ア. 社会システム系プログラム

本プログラムは、防災科学分野、地域環境分野、構造・材料分野、地域創成分野、臨床心理学分野の構成の下に、現代社会の基幹を成す科学技術分野である社会基盤学、社会科学、あるいは人間科学の深化と、文理横断的な視野を含めた広い視野に立って他分野との融合化をさらに発展させることができる研究者や技術者を養成することを通して、次世代の持続可能社会に貢献することを目的とする。

文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成する。

の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成する。

なお、本プログラムでは、主に社会生活基盤に関する課題解決、持続可能な地域づくり・地域計画に貢献できる人材を養成する。このことを踏まえ、「学術」系に関しては、とくに都市まちづくり、農山漁村の地域づくりを専門とする社会学系の教員がソフト面からのまちづくりの理論と実践の教育のベースとなり、さらに、公共政策学、文化人類学、運動生理学、臨床心理学等、実証的なアプローチに基づき政策、文化、環境、健康、心理等の観点からまちづくり、地域課題の解決を目指す関連領域の教員が加わり、社会基盤系（理系）教員の専門とする土木、防災、環境、すなわちハード面からのまちづくり研究・実践へのアプローチと相互補完しつつ、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者の養成を目指す形を取る。

(25 ページ)

(2) 各学位プログラムの名称及び学位の名称

① 社会基盤システムプログラム

本プログラムは、文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境の創造に貢献するための教育研究を行うことから、「社会基盤システムプログラム (Social and Infrastructure System Program)」とする。

防災工学、地盤工学等の工学分野の高度な知識・技能に加え、関連する社会科学、人間科学、理学分野を交えた社会技術に関わる高度な知識・技能についても横断的に学修することができ、それらを学位論文に結実させることができる教育体制を整えていることから、学位分野は工学または学術関係であ

の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境を創造できる高度専門職業人・研究者を養成する。

(20 ページ)

(2) 各学位プログラムの名称及び学位の名称

① 社会システム系プログラム

本プログラムは、文理横断的な専門知識・技能をふまえ、地域再生、防災・減災、インフラ整備、環境問題等の社会の諸課題の解決に取り組むとともに、持続可能な地域づくりや地域・環境計画などを通して、安全で快適な社会生活基盤ならびに社会文化環境の創造に貢献するための教育研究を行うことから、「社会システム系プログラム (Social and Environmental System Program)」とする。

防災工学、地盤工学等の工学分野の高度な知識・技能に加え、関連する社会科学、人間科学、理学分野の高度な知識・技能についても横断的に学修することができ、それらを学位論文に結実させることができる教育体制を整えていることから、学位分野は工学または学術関係であり、授与する学位は「博士(工



<p>り，授与する学位は「博士（工学）（Doctor of Engineering）」または「博士（学術）（Doctor of Philosophy）」とする。</p> <p>（以下略）</p>	<p>学）（Doctor of Engineering）」または「博士（学術）（Doctor of Philosophy）」とする。</p> <p>（以下略）</p>
---	---